

平成30年度 NIE 実践報告

さつま町立柏原小学校

1 本年度のNIE教育の目標

NIE 研究実践を始めて3年目となる本校では、昨年度の取り組み成果と課題を生かし、本年度の目標を「自ら学び、主体的に学習に取り組むことができる子どもの育成のために、効果的な新聞活用を生かした指導法の実践を図る。」とした。

2 各学年の目標

低学年・・・ 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・ 新聞の記事を読み、自分の考えをもち、表現することができる。

高学年・・・ 新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えを比べたりして、意見文を書くことができる。

※ 本年度は特に家庭との連携に力を入れて取り組む。

3 研究の実践内容

- (1) NIE 教育についての校内研修
- (2) NIE コーナーの活用
- (3) 新聞・情報委員会による児童会活動
- (4) NIE ワークシートの活用
- (5) 「若い目」や「子供のうた」等新聞への各種作品投稿
- (6) 家庭教育での取組
- (7) 南風録への取組

4 研究の実際

- (1) NIE 教育についての校内研修

「自ら課題を見つけ、考えを表現し合える児童の育成」は本校の校内研修のテーマであり、その実現のための具体策の一つとして、新聞を活用した取組を行った。

まず、4月の研究テーマ・研修計画の作成において、全職員で今年度の取組について共通理解を図った。その際、研究の視点の一つにNIE教育を設定し、全校体制で取り組むことにした。特に、国語の授業を中心に思考力・判断力・表現力の育成の手段として新聞を活用した。

また、年間2回職員研修でNIE教育を行った。10月には南日本新聞社に「よむのび教室」を依頼し、職員向けにワークショップをしていただいた。実際に「はがき新聞」を作成する活動を通し、児童に新聞を書かせるときの視点や見出しの付け方、レイアウトの仕方などについて学ぶことができた。

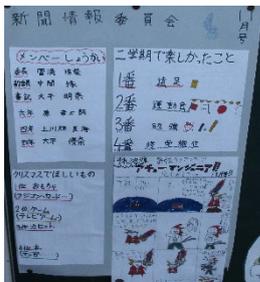
(2) NIE コーナーの活用

昨年度設置した新聞閲覧コーナーに、毎朝、各種新聞を広げたまま置くことで、児童が自由に読めるようにした。また、児童の作品を掲示するスペースを低学年、中学年、高学年毎に設けて、NIE 学習の意欲を高め、学年相互の NIE 学習の状況が分かるようにした。さらに、2学期に実施した「ファミリーフォーカス」の作品を全学年掲示することで、その後の「ファミリーフォーカス」の実践へ見通しがもてるようにした。

また、職員も他の学年の取組が分かり、3学期に「ファミリーフォーカス」を実施する際の指導に役立てることができた。

(3) 新聞・情報委員会による児童会活動

新聞・情報委員会の主な活動内容は、新聞閲覧コーナーの新聞の設置や整理、校内新聞の作成である。月一回、新聞を作成し、NIE コーナーに提示している。今年度は、児童集会でも新聞記事を活用し記事の紹介やクイズを行った。



校内新聞



NIE コーナー



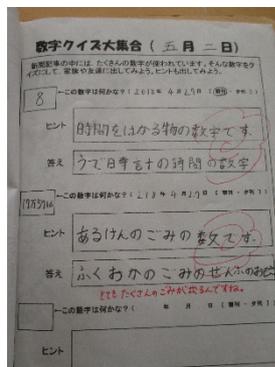
新聞閲覧コーナー

(4) NIE ワークシートの活用

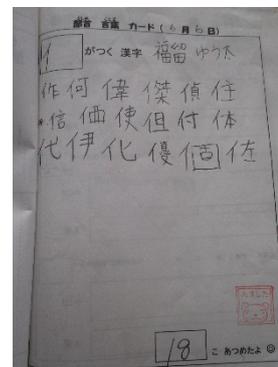
南日本新聞社からいただいたワークシートやホームページからダウンロードしたワークシートを、NIE タイムや朝の会で活用した。

ア NIE タイムでの活用

各学年の実態に合わせて教師がワークシートを選び、取組を行った。低学年では「新聞写真アルバム」で、自分の選んだ写真を友達同士で見せ合う活動、中学年では「数字クイズ大集合」や「今日のヒーロー」、高学年では「気になるニュース」の紹介や記事の要約などを行った。



数字クイズ大集合



漢字・部首カード

新聞写真アルバム



友達が選んだ写真を交換しながら見る様子(1年生)

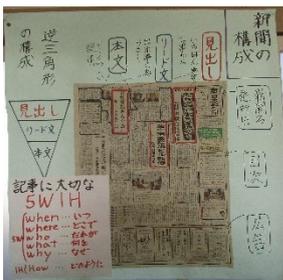
今日のヒーロー



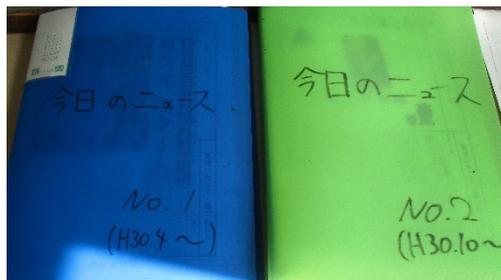
友達と記事を読み合う様子(3年生)

イ 朝の会での活用

高学年では、朝の会の「1分間スピーチ」の中で、今日のニュースの紹介と感想の発表を毎日行った。「気になるニュース」のワークシートを活用し、紹介を行った後はファイリングし、学級のNIEコーナーに展示することで、いつでも見ることができるようにした。【写真は5年生の取り組みの様子】



新聞の構成



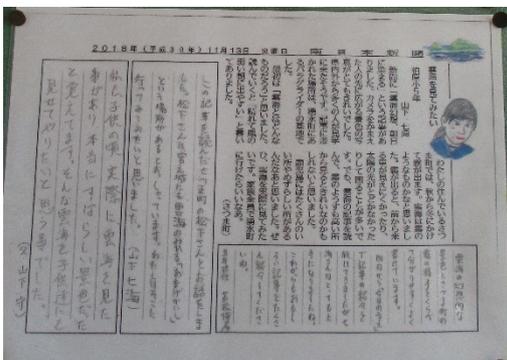
今日のニュース(冊子)



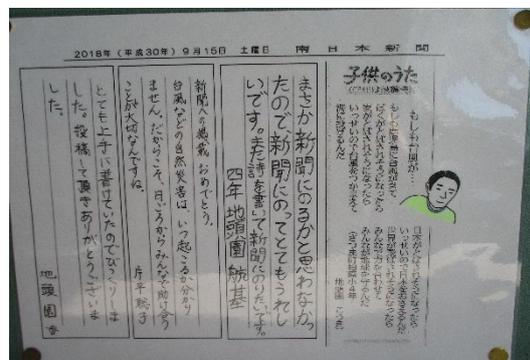
今日のニュース(記事)

(5) 「若い目」や「子供のうた」等の各種新聞への作品投稿

南日本新聞「若い目」や「子供のうた」等への作品投稿を積極的に呼びかけた。掲載された児童の作品を校内掲示して、児童の意欲化を図った。また、地区「よむのびコンクール」へ3～6年全児童が応募し、家庭でもNIE教育に取り組んだ。



若い目



子供のうた

(6) 家庭教育での取組

9月の授業参観で、南日本新聞社から講師の先生をお招きし、「ファミリーフォーカスの実践の仕方」についてワークショップ型の「よむのび教室」をしていただいた。家族で新聞を広げながら、実際に記事を選び感想を記入した。できあがった作品は「NIEコーナー」に掲示をした。今後も学期1回のペースで取り組んでいく予定である。



(7) 南風録への取組

本年度、新たな取組として週に1回、「南風録」を活用した視写と新聞記事の要約、感想の記入の実践を行った。

「南風録」の視写は漢字や文章の内容が難しかったため、教師が書いたお手本を見ながら視写させるようにした。新聞記事の要約・感想記入については、家族に読んでもらったり、辞書をひいたり、写真や見出しから内容を想像したりしながら、子どもたちなりに自分の考えをまとめることができた。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

ア 実践研究3年目となり、全職員で共通理解、共通実践しながら進めることができた。

NIEタイムやよむのび教室など全校での取り組みだけでなく、各学年の実態に合わせて特色ある取り組みの実践が見られた。

イ 実践を続ける中で、特に中・高学年は新聞の構成（見出しやリード文）を理解し、み取りや要約の力をつけることができた。

ウ 「ファミリーフォーカス」を通して、家庭と協力しながら実践することができた。

(2) 課題

ア 教育課程への位置付けを明確にし、さらに効果的な活用法を探りたい。

イ 旬な話題を取り上げるような視点をもたせる教師側の事前の準備について共通理解していきたい。

ウ 新聞・情報委員会からの働きかけの更なる充実を図りたい。